

科目名	哲学	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	哲学入門の講義である。世界や自分について、哲学的な問いを投げかけ、その答えに向かって思索をめぐらせたい。
	到達目標	哲学的なテキストを丁寧に読む力を身につける。 テキストや講義を通じて、自ら考える力を身につける。 哲学的な問いとそれに対する答えを自分の言葉で表現できる。
授業計画	(1) 意識・実在・他者① (2) 意識・実在・他者② (3) 記憶と過去① (4) 記憶と過去② (5) 時の流れ① (6) 時の流れ② (7) 私的体験 (8) 経験と知① (9) 経験と知② (10) 規範の生成 (11) 意味のありか① (12) 意味のありか② (13) 行為と意志 (14) 自由 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・2～3回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 野矢茂樹 『哲学の謎』 講談社 1995 (ISBN4-06-149286-1) 【参】 ・永井均 『翔太と猫のインサイトの夏休み』 ナカニシヤ出版 1995 (ISBN4-88848-289-6) ・永井均 『マンガは哲学する』 現代岩波文庫2009 (ISBN978-4-00-603183-1)	
成績評価方法と基準	<基準> 課題について、少なくとも自分の言葉で自分の考えを書かなければ不合格です。 <方法> 基本的に期末レポートによる。	
備考	・読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	現代の倫理	
担当者	村若 修 / MURAWAKA, Osamu	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	現代の倫理問題はさまざまであるが、本講義ではとくに「生命倫理」の問題に焦点を当てて検討する。最初にアメリカで「バイオエシックス」と呼ばれる学問が成立した事情とその思想的意義を解説し、その後で、具体的な諸問題を取り扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命倫理学」という学問分野について理解する。 ・現代における生命倫理の諸問題を認識する。 ・その諸問題について、自分の考えを表明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「生命倫理学」とは？ (2) 生命倫理学（バイオエシックス）の成立 (3) 生命倫理学の基本原理 (4) 尊厳死（1） (5) 尊厳死（2） (6) 安楽死 (7) 安楽死 (8) 人工妊娠中絶 (9) 生殖補助医療技術の諸問題（1） (10) 生殖補助医療技術の諸問題（2） (11) 出生前診断（1） (12) 出生前診断（2） (13) 脳死と臓器移植 (14) 脳死と臓器移植 (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・配付資料やビデオ教材に対する感想文等の提出を求めることがある。
使用教材・参考文献	<p>【教】 玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』有斐閣（ISBN978-4-641-12420-2）</p> <p>【参】 中山愈編『現代の思想的課題』弘文堂（ISBN4-335-15041-5） 今井道夫『生命倫理学』産業図書（ISBN4-7828-0206-4）</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準></p> <p><方法> 基本的に期末テストによる。</p>	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	宗教文化論	
担当者	兼城 糸絵 / KANESHIRO, Itoe	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期or後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	本講義では、日本を含む東アジアや東南アジアを中心とした地域で営まれている多種多様な「宗教」について、具体的な事例をもとに紹介していく。そして、「宗教」に対する理解を深めるだけでなく、「宗教」を研究対象とするに当たって必要な知識の習得を目指していく。
	到達目標	1、東アジアや東南アジアにおける多様な宗教文化について理解を深め、「宗教」に関する基礎知識を得ることができる。 2、近代化やグローバル化といった社会的・歴史的ダイナミズムを踏まえながら、「宗教」をとらえていく重要性について理解できる。
授業計画	(1) オリエンテーション(講義の概要、評価方法に関する説明、および簡単なレクチャー) (2) 「宗教」とは何か?①—「宗教」の概念をめぐる問題について (3) 「宗教」とは何か?②—宗教文化の諸形態 (4) 信じることと行うこと—呪術、邪術、妖術とその論理 (5) 儀礼論 (6) 祖先祭祀と家、親族—南西諸島を事例に (7) シャーマニズムと近代—「癒し」の諸相 (8) 東アジアにおける「宗教」の諸相① (9) 東アジアにおける「宗教」の諸相② (10) 東アジアにおける「宗教」の諸相③ (11) 東南アジアにおける「宗教」の諸相① (12) 東南アジアにおける「宗教」の諸相② (13) 日本の「宗教」事情① (14) 日本の「宗教」事情② (15) 現代における宗教—本講義のまとめにかえて	
自学自習	事前学習	参考書を通読しておくことが望ましい。
	事後学習	ハンドアウトで提示した参考文献に目を通すこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。 櫻井義秀・三木英(編著)『よくわかる宗教社会学』2007ミネルヴァ書房。 ISBN:4623049965 【参】 その他適宜講義中に提示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 毎時の講義で提示するキーワードについて理解し、宗教に対して自分なりの見解を示せた者を合格とする。 <方法> 講義終了時に行う小テスト(50%)、期末レポート(50%)に基づき評価する。	
備考	講義の進度によって内容を変更する時もある。	

科目名	人間らしさを考える	
担当者	◎木下 昌也 / 蒲地 賢一郎 / 松本 宏明 / 溝上 宏美	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	本講義では人間という動物を特徴づけると考えられるものを取り上げそれらの本質、普遍性について考える。本年度は、人間の本質的な行動でもある言語、基本的な社会集団としての家族、近代社会の普遍的概念としての人権概念、そして人間のライフサイクルについて取り上げる。
	到達目標	講義で取り上げた内容について自分自身のこれまでの考えや経験を重ね合わせて考察できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 家族と人間① (3) 家族と人間② (4) 家族と人間③ (5) ことばとヒト① (6) ことばとヒト② (7) ことばとヒト③ (8) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－① (9) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－② (10) 世界史における人権概念－「普遍性」を問う－③ (11) 人間のライフサイクル① (12) 人間のライフサイクル② (13) 人間のライフサイクル③ (14) 総まとめ① (15) 総まとめ②	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・各テーマそれぞれで指示される課題に取り組むこと
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。 【参】 授業中紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 各テーマでそれぞれ上記目標に到達すること <方法> 各テーマで出される課題及び最終課題(レポート又は筆記テスト)で評価する。	
備考		

科目名	東洋思想	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	儒家思想についての講義。孔子、孟子、荀子を採り上げ、儒家の基本的特徴と、三者の差異及びその原因について講じる。
	到達目標	儒家思想の基本的特徴を理解する。 思想を体系的に把握する方法を学ぶ。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 封建制の構造と弱点 (3) 孔子の生涯と思想 (4) 孟子の生涯とその時代 (5) 政治観：「仁政」 (6) 法家思想と商君の改革 (7) 尚古の歴史観：「一治一乱」 (8) 性善説とその目的 (9) 荀子の生涯とその時代 (10) 性悪説とその目的 (11) 秦に対する評価と社会への視線 (12) 「天人之分」の内実 (13) 三才(天・地・人)の関係とそれを統べるもの (14) 漢代の儒家：儒家一尊の実態 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】 赤塚忠編『思想史』中国文化叢書3 大修館書店1967年 赤塚忠編『思想概論』中国文化叢書2 大修館書店1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店1987年	
成績評価方法と基準	<基準> 儒家思想の基本的特徴と、孔子、孟子、荀子の思想の差異及びその原因を理解できていれば合格とする。 <方法> 筆記試験60% 出席態度40%	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	日本の歴史	
担当者	梶尾 達哉 / TORAO, Tatsuya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	古代～近世の日本について、高校までの「日本史」では取り上げないいくつかのテーマを、学説・史料・資料を紹介しながら、考えていきます。高校の「日本史」未修者でも受講可です。
	到達目標	日本の国家の成立に関心をもち、前近代の罪刑・性愛・習俗についての観念と現代との関係を説明できること。さまざまな史料・資料に親しみ、歴史学的な思考ができるようになること。
授業計画	(1) 騎馬民族征服説Ⅰ (2) 騎馬民族征服説Ⅱ (3) 稲荷山古墳出土鉄剣銘文Ⅰ (4) 稲荷山古墳出土鉄剣銘文Ⅱ (5) 古代の罪と罰Ⅰ (6) 古代の罪と罰Ⅱ (7) 古代の罪と罰Ⅲ (8) 中世の悪口 (9) 中世の絵巻物を読むⅠ (10) 中世の絵巻物を読むⅡ (11) 中世の絵巻物を読むⅢ (12) 近世における主君押込 (13) 古代・中世・近世の古文書を読むⅠ (14) 古代・中世・近世の古文書を読むⅡ (15) 古代・中世・近世の古文書を読むⅡ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・受講後、毎回内容等を整理する。 ・質問等はいつでも受け付ける。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 参考書は講義中に必要に応じて知らせる。	
成績評価方法と基準	<基準> 講義の内容が理解された場合を合格とする。 <方法> 受講態度30%、試験70%	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	アジアの歴史	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	唐代後半の政治史。唐帝国の崩壊の過程を、制度と出来事との相互関係として解説する。
	到達目標	唐代後半の政治史を理解する。 中国の君主政治の基本的な仕組みを把握する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国史の基礎知識 (2) 玄宗期の節度使と傭兵 (3) 安史の乱の経過 (4) 安史の乱の遺産 (5) 国家財政 ー塩税と羨余 (6) 白居易 ーある士大夫の官歴 (7) 軍人 1 ー節度使 (8) 軍人 2 ー傭兵 (9) 徳宗と建中の変 (10) 宦官 1 (11) 宦官 2 (12) 憲宗の功績と限界 (13) 大運河 ー帝国の生命線 (14) 三大反乱と自壊する帝国 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に取り上げた事件がどのような「仕組みと繋がり」に依っているかを再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 授業で採り上げた主要な史実を「仕組みとつながり」の観点で説明できれば合格とする。 <方法> 筆記試験60% 出席態度40%	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	中国の文化	
担当者	横山 政子 / YOKOYAMA, Masako	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	わたしたちの日常生活習慣や行事には中国伝来のものが少なくない。中国の文化を紹介しながら、中国文化と日本文化の関連や相違に興味を抱き、日常生活習慣や行事を見つめなおす。
	到達目標	生活に深く関わっている中国の文化を学ぶことにより、中国文化と日本文化との関連を見出すことが目標である。
授業計画	(1) 姓名と名付け (2) 〃 (3) 干支と二十四節気 (4) 〃 (5) 広大な国土と様々な住宅形式 (6) 〃 (7) 伝統的年中行事と祝日 (8) 〃 (9) 茶と料理の文化 (10) 〃 (11) 結婚と家族、縁起をかつぐ数字と大字 (12) 〃 (13) 中国語になった日本語、簡体字の誕生、外来語の表し方 (14) 〃 (15) 総復習	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の内容を整理してプリントを完成させる。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 中国文化に関する知識を習得して、日本文化との関連や相違が理解できたものは合格とします。 <方法> 受講態度（50%）、期末試験（50%）。受講態度には授業中に実施する小テストを含む。	
備考	読書レポートを課す。定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験をうけることができない。	

科目名	ヨーロッパの歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	近代において国際社会の規範を形成したヨーロッパの近現代史を概観する。
	到達目標	近代において世界の諸地域に大きな影響を与えたヨーロッパの近現代史を理解することで、現代社会について、歴史的背景、とりわけヨーロッパと日本を含む非ヨーロッパ世界の歴史的関係を踏まえたうえで、自分なりに考えることができるようになる。
授業計画	(1) 「文明国」とは？—近代ヨーロッパと日本 (2) ヨーロッパとは何か？ (3) 近代世界システムと奴隷貿易 (4) 環大西洋革命 (1) —産業革命 (5) 環大西洋革命 (2) —アメリカの誕生とフランス革命 (6) 国民国家とは何か？ (7) 諸帝国の動揺—オーストリア帝国とオスマン帝国 (8) 帝国主義の時代 (9) 「西洋の没落？」—第一次世界大戦 (10) ロシア革命とソ連の誕生の歴史的意味 (11) 危機の二十年—ファシズムの台頭 (12) 第二次世界大戦とヨーロッパ分断 (13) 脱植民地化とヨーロッパ (14) ヨーロッパ統合への道 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に配布したプリントをじっくり見直し、意味のわからないところは辞書などで調べたり、教員に聞くなりして理解しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。 【参】 授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> ヨーロッパの近現代史に関する基本的事項が理解できていれば合格とします。 <方法> 期末に実施する試験60%、受講態度を40%とする。受講態度は時折実施する小テストの結果やアンケート、感想文などの提出状況から評価する。	
備考	読書課題の内容を試験での評価に加味します。詳細は第一回目の授業で説明します。	

科目名	ことばの科学	
担当者	安本 真弓 / YASUMOTO, Mayumi	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	私たちは日々「ことば」を使って生活しているが、その説明を行うことは難しい。本講義では、ある時は「ことば」の歴史をさぐり、ある時は「ことば」の持つ本質(音声・意味・文法)を求め、またある時は「ことば」と社会との関係を考えながら、「ことば」について学ぶことをめざす。
	到達目標	1. 「ことば」とは何か、「日本語」とは何かを考えることができる。 2. 日本語の特徴、日本語表現の特徴について理解する。 3. 「ことば」に関する様々な問題に気付くことができ、その問題について考えをまとめることができる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 日本語の音声 (3) 文字の変遷 (4) 日本語の表記 (5) 日本語の語彙① (6) 日本語の語彙② (7) 日本語の語彙③ (8) 日本語の文法① (9) 日本語の文法② (10) 日本語の文法③ (11) 日本語と方言① (12) 日本語と方言② (13) 日本語と社会関係① (14) 日本語と社会関係② (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容をよく復習すること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 大野晋『日本語練習帳』岩波新書、1999年、ISBN 4004305969 金田一春彦『日本語』〈上〉〈下〉岩波新書、1988年、ISBN 4004300029	
成績評価方法と基準	<基準> 日本語の特徴、日本語表現の特徴について理解できており、また「ことば」に関する様々な問題に気付き、その問題について考えをまとめることができれば、合格とする。 <方法> 期末試験70%、受講態度30%	
備考	定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	日本の文学	
担当者	嶋田 直哉 / SHIMADA, Naoya	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	日本近代文学史における名作を鑑賞する。作家の略歴を解説し、実際に作品を読む。
	到達目標	近代文学の代表作品を知り、実際に読むことで文学的教養を身につける。
授業計画	(1) ガイダンス 読書の意味を考える (2) 「文学」のジャンルとスタイル (3) 樋口一葉の生涯 (4) 樋口一葉の作品を読む (5) 夏目漱石の生涯 (6) 夏目漱石の作品を読む (7) 芥川龍之介の生涯 (8) 芥川龍之介の作品を読む (9) 島崎藤村の生涯(自然主義について) (10) 島崎藤村の作品を読む (11) 志賀直哉の生涯(白樺派について) (12) 志賀直哉の作品を読む (13) 太宰治の生涯(無頼派について) (14) 太宰治の作品を読む (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・指定された作品は文庫本で事前に用意すること。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各授業終了時にコメントを記入し、提出。
使用教材・参考文献	【教】 指定された文庫本。その他、プリントを配布する。 【参】 授業中に適宜指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 文学に対する理解、関心が深められれば合格とする。 <方法> 学期末レポート60%、受講態度30%、授業終了時のコメント10%、ただしそれぞれ合格点を満たしていること。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	異文化コミュニケーション	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	グローバル化に伴い国内外において文化背景の異なる人たちとの対面コミュニケーションが増えてきている。日本人が異文化の人たちとコミュニケーションをするとき遭遇しやすい問題点を、日本人のコミュニケーション行動の特殊性から概説する。
	到達目標	1. 異文化コミュニケーションを構成する項目が理解できるようになる。 2. 文化差により生じる言語・非言語コミュニケーションの違いが理解できるようになる。 3. コミュニケーションの失敗の積み重ねにより生じるカルチャー・ショックの諸相が理解できるようになる。 4. 上記1～3について外国人にインタビューしその実態が分析できるようになる。
授業計画	(1) 国内・海外における日本人の異文化コミュニケーションの現状と問題点 (2) 異文化コミュニケーションの背景 (3) 同上 (4) 異文化コミュニケーションの領域 (5) 同上 (6) 文化とコミュニケーション (7) 同上 (8) 非言語コミュニケーション (9) 同上 (10) 言語と文化的認識 (11) 同上 (12) 同上 (13) カルチャー・ショック (14) 同上 (15) 異文化コミュニケーション実体験	
自学自習	事前学習	・「使用教材」の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容を確実に理解するために、再度「使用教材」「配付資料」「参考文献」を読み返すこと。
使用教材・参考文献	【教】 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション』1997年 丸善ライブラリー 【参】 西田ひろ子編『異文化間コミュニケーション入門』2000年 創元社	
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容を踏まえたレポートを作成し、かつ下記の方法により60%以上達成した者を合格とする。 <方法> 読書レポート (15点) 毎回コメント (15点) 前期末レポート (70点)	
備考		

科目名	隼人学	
担当者	◎岩橋 恵子 / 小山 正俊 / 近藤 諭 / 永里 紘二	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	現地研修は、スクールバス・ツアーになります。	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	隼人地域において守られ育まれてきた自然・社会・文化を、多角的かつ実践的な視点で知識を得るとともに考察します。今年度は、嘉例川・牧園・福山・垂水地区の地域産業に焦点をあてます(尚、ここでいう隼人地域とは、平和で豊かな文化を育んでいた「隼人」と呼ばれる人々が暮らしていた南九州全体をさす広い意味で用います)。
	到達目標	身近な地域遺産を学ぶことで、地域そのもののもつ豊かさに気づくことができるようになる。 地域と産業の結びつきを理解できる。 自らが地域の一員であることが自覚できるようになる。
授業計画	(1) 隼人学を学ぶにあたって (2) 地域や風土に根付いた食と農 (3) 農的生活から考える生活文化様式 (4) 合鴨農法は革命的農法 (5) 観光とまちづくり (6) これからの観光を考えるーエコツーリズムを事例にー (7) 現地研修(嘉例川・牧園) (8) 地域の恵みが持つポテンシャル(福山)1 (9) 地域の恵みが持つポテンシャル(福山)2 (10) 地域の恵みが持つポテンシャル(福山)3 (11) 親から子へ継承する起業 (12) 桜島の水が創り出す起業 (13) 地域産業～未来へ向かって～ (14) 現地研修(福山・垂水) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】	志學館大学生涯学習センター『農的生活のすすめ』南方新社、2007年／その他、講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。
	【参】	志學館大学生涯学習センター・隼人町教育委員会編『隼人学ー地域遺産を未来につなぐー』南方新社、2004年
成績評価方法と基準	<基準>	地域のもつ多様な豊かさと可能性を活かして創り出す産業のあり方への視座を獲得し表現できる。
	<方法>	授業中に課す小レポート40点、期末試験 60点。なお、教員が指示する「読書」課題の遂行を、成績評価を受けるための条件とする。
備考		

科目名	恋愛論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko 他	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	当科目を発案したキャリア教育研究室「新科目プロジェクト」により運営される。	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	思春期・青年期の重要な発達課題の1つとなりうる「恋愛」について、様々な専門領域からアプローチして考えることで視野を広げるとともに、人間と社会に対する関心を深め、豊かな教養を身に付ける一助とする。毎回講師の異なるオムニバス形式であり、授業の後半は各自が考察してグループで話し合い、最終回に発表する。
	到達目標	①それぞれの学問分野や専門領域において、恋愛や男女の人間関係・生活関係についてどのような論じ方があるのかを知る。 ②1つのテーマに関して多角的に考察する力を身に付ける。 ③学習援助者として配置されるキャリア教育ゼミの学生(SA)のサポートを受けながら、発信力・傾聴力を高め、学科や学年を越えた出会いやコミュニケーションを楽しむ姿勢を発揮する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) キャリア教育：キャリア形成における「愛」の役割(志賀玲子准教授) (3) 地元企業：国際派・女性社長が語る恋愛事件簿(門田晶子氏/ 湧上印刷株式会社 代表取締役社長) (4) グループ・ディスカッションの進め方(キャリア教育研究室) (5) 文学：日本古典文学に描かれる男女の情愛(山崎桂子教授) (6) 心理学：恋愛の心理と対人魅力(神菌紀幸准教授) (7) 舞台舞踊：バレエで描かれる恋愛(白鳥五十鈴氏/SHIRATORI BALLET) (8) ドラマ・演劇：恋愛をどう演出するか(豎山博之氏/中村栄子事務所 演出家) (9) 社会思想：ロマンティック・ラブの誕生と現在(清水昭雄学長) (10) マーケティング論：恋愛をマネジメントする(平手賢治准教授) (11) 色彩学：カラー・イメージと恋愛(調整中) (12) 行政：「まちコン」の取り組みの現状と課題(調整中) (13) 民法：結婚と離婚にまつわる法知識(牧野高志講師) (14) 刑法：男女間に起こった事件の結末(杉山和之講師) (15) グループ発表と総まとめ	
自学自習	事前学習	・人生における恋愛の位置づけについて、様々なロールモデルをもとに考察しておくこと。
	事後学習	・それぞれの回の内容や資料を復習し、自分の考えを深めておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準>	毎回積極的に授業に参加し、話し合いやコメントシートで自分の考えを深め、各専門領域の特色を踏まえた上でレポートに適切にまとめられた場合に、合格とする。
	<方法>	参加態度60%、コメントシート15%、レポート25%。
備考	レポート課題の一部に読書課題を含む。	

科目名	韓国の言語と文化	
担当者	有松しづよ / ARIMATSU, Shizuyo 入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	◎本授業は6泊7日の韓国文化研修旅行を含みます。	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	(1) 韓国ソウルの視察旅行 (2) 韓国の伝統文化体験 (3) 韓国の大学生との交流
	到達目標	(1) 簡単な韓国語でコミュニケーションができるようになる。 (2) 韓国の歴史・文化・言語に対する理解を深める。 (3) 韓国の大学生と交流することにより、積極的に他国の人々と関わろうとする姿勢を身につける。
授業計画	<p>(1) 事前指導 日時：平成26年7月～8月に3回実施 内容：ガイダンス、韓国で必要な会話練習、韓国の歴史・文化・習慣</p> <p>(2) 韓国文化研修旅行 日時：平成26年8月31日(日)～9月6日(土) 6泊7日(予定) 場所：韓国ソウル市 内容：ソウル市内・近郊の視察、伝統文化体験、韓国の大学生との交流</p> <p>(3) 研修報告 帰国後、研修の成果をレポートにまとめて提出する。</p>	
自学自習	事前学習	韓国の歴史、文化、伝統、観光地等について調べておくこと。
	事後学習	研修の成果をレポートにまとめて提出すること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 使用しない。配布するプリントを使用する。</p> <p>【参】 入佐信宏・文賢珠『よくわかる韓国語STEP1』白帝社 2002年</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 上記の到達目標に達した者を合格とする。</p> <p><方法> 事前指導での積極性(10点)、文化研修での積極性(60点)、レポート(30点)で評価します。上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とします。</p>	
備考	<p>(1) 参加費用は10万円程度の予定(航空運賃、宿泊費、食費、海外旅行保険、伝統文化体験費用、入場料、現地での交通費等)</p> <p>(2) 韓国語ができなくても受講可。</p> <p>(3) 出発前の事前指導には必ず参加すること。</p> <p>(4) 教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。</p> <p>(5) 詳細は有松研究室(1334号)または入佐研究室(1306号)まで。</p>	

科目名	実践日本語講座	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	教養科目1群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている。	
科目概要	授業内容	さまざまな文表表現について学習する。そのうえで卒業論文や就職時に求められる文章表現の基礎を習得する。毎授業ごとに小テストを実施する。
	到達目標	多様な文章表現のなかから目的に応じた表現方法を選択し、文章やプレゼンテーションにて発表できる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 書き言葉と話し言葉 (3) 尊敬語と謙譲語 (4) 文章表現の工夫1 (5) 文章表現の工夫2 (6) 文章表現の工夫3 (7) 文章表現の工夫3 (8) ビジネス文章1 (9) ビジネス文章2 (10) 口頭発表の工夫1 (11) 口頭発表の工夫2 (12) 口頭発表の工夫 (13) プレゼンテーション (14) プレゼンテーション (15) 授業内容の総まとめ	
自学自習	事前学習	事前学習課題に取り組む
	事後学習	既受講内容を復習する
使用教材・参考文献	【教】 オリジナルテキストを使用する。 【参】 随時紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 多様な文章表現の存在を自覚し、目的に応じた的確に使い分けることができる。 <方法> 授業参加度55点 定期試験45点	
備考	授業参加度評価中には読書課題の提出も含む	

科目名	現代の社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	私たちが生きている現代社会は、どのように形成され、どんな到達点にあり、どんな課題を抱えているのだろうか。授業では、このことを現代日本における労働・貧困・福祉国家・新自由主義・生活等と若者の関連という切り口で考える。高校時代の科目「現代社会」の内容を、大学の学問的枠組みによって再構成し、事象と事象の関係やつながりという見方によって、現代社会の特徴をトータルに把握する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代から現代への社会の転換について、基礎的な知識を持つ。 「労働と生活」に現れた日本社会の特徴について理解できる。 大学教育を受ける者としての常識的教養である現代社会のキーワードについて、基本的理解と説明ができる。 数値データの表を読み取り、その背後にある社会事象を推測し、それを論理的な文章に表現できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 授業の進め方とイントロダクションー現代社会の特徴を捉える 労働ー雇用の多様化と劣化 貧困ー雇用と社会保障の劣化による格差の固定化 「大人になる基準」の変化と「現代社会で大人になるとは」 ここまでのまとめと振り返り 資本主義ー現代社会の基本的構造として 福祉国家ー資本主義のもとでの福祉・生活重視の政治の行方 新自由主義ー市場原理主義と規制緩和の行方 グローバリゼーションー多国籍企業と国内経済の利害不一致が拡大する ここまでのまとめと振り返り 生活ー「豊かさ」の広がり一方で諸「難民」の発生 家族ー「標準的家族」から「多様な家族」へ 男性の労働・女性の労働ー「平等」感の浸透と「実態」のギャップ メディアの読み方・メディアとの付き合い方 総まとめ 	
自学自習	事前学習	授業までに、テキストの該当章を読んでおき、出てきた意味の分からない用語は、辞書等で調べておくこと。
	事後学習	毎回、新聞の「労働」「社会保障」に関連する記事に目を通しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】	中西新太郎・蓑輪明子編『キーワードで読む 現代日本社会 第2版』旬報社, 2013年, ISBN 9784845113163 森岡孝二, 川人博, 鴨田哲郎『これ以上、働けますか? : 労働時間規制撤廃を考える』岩波ブックレット, 2006年, ISBN 9784000093903 熊沢誠『若者が働くとき : 「使い捨てられ」も「燃えつき」もせず』ミネルヴァ書房, 2006年, ISBN 9784623045938
	【参】	エル・フィスゴン『グローバリゼーションとは何か? : まんがで学ぶ世界の経済 : 多国籍露天商で成りあがれ!』明石書店, 2005年, ISBN 9784750321448 遠藤公嗣他『労働、社会保障政策の転換を : 反貧困への提言』岩波ブックレット, 2009年, ISBN 9784000094467 牧野カツコ他『国際比較にみる世界の家族と子育て』ミネルヴァ書房, 2010年, ISBN 9784623056897
成績評価方法と基準	<p><基準> 科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。</p> <p><方法> 定期筆記試験80%、①新聞記事提出課題10%、②ワークショップ参加課題10%。</p>	
備考	<p>次の2課題の遂行を求める。</p> <p>①雇用・社会保障関連の新聞記事を切り抜き、毎回コメントをつけて提出する。</p> <p>②定期筆記試験日までに読書レポートを提出していること（作成要領等は授業で指示する）。</p>	

科目名	現代社会の病理	
担当者	近藤 諭 / KONDO, Satoru	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている。	
科目概要	授業内容	現代社会は変化の中で様々な問題があらわれています。授業では、そのような「社会の病」を扱う視点と、表面的な現象の背後にある社会・文化構造的な原因に目を向けることで、出来事の裏側を探ることのできるような思考を鍛えることを目指します。
	到達目標	・何が「病理現象」とされるかについての相対的な視点が身につく。 ・報道などで扱われる出来事の裏側の社会的な背景に目を向けて考えることができる。
授業計画	(1) 社会病理という用語の意味するところ (2) 構成的視点で作られる「社会病理」 (3) 社会病理学における諸理論 (1) コントロール理論、分化的学習理論 (4) 社会病理学における諸理論 (2) ソーシャル・ボンド理論 (5) 社会病理学における諸理論 (3) ラベリング論 (6) 犯罪統計の見方 (1) (7) 犯罪統計の見方 (2) (8) 犯罪統計の見方 (3) (9) 「青少年問題」としての社会病理現象 (1) (10) 「青少年問題」としての社会病理現象 (2) (11) 現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題 (1) (12) 現代社会の世帯構造の変化に見る諸問題 (2) (13) 現代社会における自殺の背景 (14) ホームレス増加の背景 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・授業で配布される資料を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	Moodleでの課題を遂行することが復習になります。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 鮎川潤 『少年犯罪』 平凡社新書 2001年 ISBN4-582-85080-4 【参】 矢島・丸・山本編 『よくわかる犯罪社会学入門』 学陽書房 2004年 ISBN4-313-34008-4 ほか	
成績評価方法と基準	<基準> 授業で扱った「病理現象」の背景についての理解度を評価基準とします。 <方法> 筆記試験70% 講義中で指定する文章読解課題10%、Moodle上で課題提出20%の割合で評価を決定します。	
備考		

科目名	日本国憲法	
担当者	長谷川 史明 / HASEGAWA, Fumiaki	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次 教員免許状取得希望者は「日本国憲法（2単位）」必修。ただし法律学科専門科目「憲法Ⅰ・Ⅱ」（合計4単位）でも可。	
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	① 憲法 の概念及び意義 ② 日本国憲法の制定過程における問題点 ③ 日本国憲法の主な内容（主要な憲法判例の解説を含む）
	到達目標	① 憲法（constitution）の意味について理解する ② 日本国憲法の制定過程について理解する ③ 日本国憲法の主な内容について知識を深める（特に主要な憲法判例を知る）
授業計画	(1) この講義の概要説明 (2) 規範と事実 (3) 「憲法」（constitution）とはなにか (4) 立憲主義と法の支配 (5) 西洋における近代的憲法の成立 (6) 近代的憲法の日本における受容（大日本帝国憲法の意義） (7) 日本国憲法の制定過程 (8) マッカーサー草案 (9) 統治機構総論 (10) 国会・内閣・裁判所 (11) 国民の基本権総論 (12) 自由権的基本権 (13) 社会権的基本権 (14) 日本国憲法に関する重要な判例 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	※事前・事後学習としては、1回の講義につき、約4時間読書することを標準とします。詳細は講義時間に説明します。
使用教材・参考文献	【教】 三好・鈴木・長谷川『テキストブック憲法』（嵯峨野書院、2012年） 【参】 講義時間中に紹介・説明する。	
成績評価方法と基準	<基準> 大卒程度公務員試験の教養試験レベルの内容理解に達しているかどうかを評価の基準とする。 <方法> 試験、講義時間中に行う小テスト、提出物等により評価する。評価方法及び評価基準の詳細は、講義時間において説明する。	
備考	小学校から高等学校までに習得した憲法に関する基礎知識を前提に講義を行うので、受講者は復習しておくこと。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、授業時間に説明する。	

科目名	現代社会と法	
担当者	畑井 清隆 / HATAI, Kiyotaka	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	法学の基本的事項を講義します。
	到達目標	法学の基本的事項を理解している。
授業計画	(1) 刑法の基礎1 (2) 刑法の基礎2 (3) 刑事訴訟法の基礎1 (4) 刑事訴訟法の基礎2 (5) 民法の基礎 (6) 不法行為法の基礎1 (7) 不法行為法の基礎2 (8) 契約法の基礎1 (9) 契約法の基礎2 (10) 民事訴訟法の基礎1 (11) 民事訴訟法の基礎2 (12) 家族法の基礎1 (13) 家族法の基礎2 (14) 統治機構の基礎 (15) 基本的人権の基礎	
自学自習	事前学習	・参考文献の該当箇所を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の最初の15分間、小テストを行います(2~3回おきに実施)。 ・小テストおよび期末試験に向けてプリント等を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 プリントを使用します。 【参】 松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫『はじめての法律学(第3版)』有斐閣 2010年 ISBN 4641124256	
成績評価方法と基準	<基準> 法学の基本的事項を理解している場合に合格とします。 ※出席が全受講時数の3分の2に満たない者には単位を付与しない(履修規程12条)。 平常点(小テスト8点×5回)40点+読書レポート10点+期末試験50点で評価します。 <方法> ※たとえば、5回の小テストの合計で9点以下であり、読書レポートを提出していない場合には、期末試験(追再試験)が満点(50点)であっても、単位を修得することができません。	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とします。	

科目名	現代社会と政治	
担当者	原 清一 / HARA, Seiichi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	日本の政治と一口に言っても、政治家と官僚の関係、内閣と与党の関係、衆議院と参議院の関係、無党派層の出現と投票行動の変化など、さまざまな論点があります。講義では、日本の政治に関するこれまでの研究を参照しつつ、問題点を考えていきます。社会科学をはじめて学ぶ学生にも理解できるよう、できるだけ分かりやすい講義を心がけます。
	到達目標	よくテレビなどで「もっと分かりやすい政治をしてほしい」と言う人を見かけます。しかし米国のリンドブロムは著書で、民主制では政治家の数が多く、この複雑性は特定の支配者に責任を負わせることを困難にすると指摘しています。彼によれば、民主的な社会では政治はそもそも分かりにくいものようです。現代の政治は複雑であることを理解した上で、粘り強く考えていけるようになるのが、講義の目標です。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 政策による選挙は可能か?① (3) 政策による選挙は可能か?② (4) 政党と無党派層 (5) 日本の選挙制度① (6) 日本の選挙制度② (7) 政党の理論① (8) 政党の理論② (9) 日本の政党① (10) 日本の政党② (11) マスコミと政治① (12) マスコミと政治② (13) 小さな政府、大きな政府① (14) 小さな政府、大きな政府② (15) 結論	
自学自習	事前学習	教科書等の該当箇所を事前に読んだうえで、講義に出席してください。
	事後学習	講義中に指示する課題図書を読んでください。
使用教材・参考文献	【教】 堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識』一藝社、2004年 【参】 北山俊哉、真淵勝、久米郁男『はじめて出会う政治学』有斐閣、2003年 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣、1996年	
成績評価方法と基準	<基準> 講義内容がおおむね理解できていると判断されれば、単位が認定されます。 <方法> 試験により評価します。教科書や参考文献からの長文引用、インターネットからの丸写しなど不誠実な答えは評価の対象外となり、単位は認定されません。	
備考	本講義は、共通教育科目における「読書の必修化」の対象科目です。講義の受講に加え、課題図書の読了が単位取得の条件になります。詳細については、講義中に適宜指示します。 なお、講義中に私語をする学生の受講は認めていません。学期を通じて注意を2回受けた学生については、試験を受けることができません。単位は認定されません。	

科目名	現代社会と経済	
担当者	永里 紘二 / NAGASATO, Koji	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	現代経済社会が抱えている諸問題を経済学的視点から分析します。
	到達目標	日本経済新聞の記事を理解し、次にどんなことが起きるのか予測できる力を養います。
授業計画	<p>I 日本経済の過去</p> <p>(1) 明治～第二次大戦</p> <p>(2) 戦後～バブル崩壊</p> <p>(3) 失われた20年</p> <p>II 日本経済の現状</p> <p>(4) アベノミクスの分析</p> <p>(5) TPP問題</p> <p>(6) 農業問題</p> <p>(7) エネルギー問題</p> <p>(8) 社会保障と税の一体化</p> <p>(9) 中間テスト</p> <p>III 日本経済の将来</p> <p>(10) 国境を越えるマネー</p> <p>(11) 国境を越える企業</p> <p>IV 日本経済の未来</p> <p>(12) 小さな政府か大きな政府</p> <p>(13) 日本の選挙制度</p> <p>(14) 地方分権の確立</p> <p>V 日本経済のあるべき姿</p> <p>(15) 日本経済のあるべき姿</p>	
自学自習	事前学習	・毎回の授業を受けるにあたって、「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	<p>【教】 池上彰のニュースから未来が見える 池上彰 文芸春秋</p> <p>【参】</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 中間試験40点、期末試験60点とします。</p> <p><方法></p>	
備考		

科目名	現代の世界と歴史	
担当者	溝上 宏美 / MIZOKAMI, Hiromi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	現代世界を形作ってきた第二次世界大戦後から現在までの世界史を概観する。
	到達目標	現代世界で起こっている出来事の歴史的背景について大まかに説明できるようになる。
授業計画	(1) 20世紀とはどんな時代だったかー「短い20世紀」 (2) 冷戦への序章ー第二次世界大戦 (3) パクス・アメリカナの時代ー戦後国際秩序構想と核兵器 (4) ヨーロッパ分断とドイツ問題 (5) パレスチナ問題の起源ーアラブ世界とイスラエル (1) (6) パレスチナ問題の起源ーアラブ世界とイスラエル (2) (7) 朝鮮戦争とサンフランシスコ講和 (8) 中華人民共和国と台湾問題 (1) (9) 中華人民共和国と台湾問題 (2) (10) アジアの脱植民地化と第三世界 (11) スターリン批判からキューバ危機まで (12) 植民地支配が残したものー「アフリカの年」とその後 (13) 「地滑り」ーベトナム戦争とアフガニスタン侵攻 (14) 「歴史の終わり？」ー冷戦の終結 (15) 地域紛争と「文明の衝突？」ー冷戦後の世界	
自学自習	事前学習	・新聞の国際面に目をとおしておくこと。テレビのニュースをみしておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に配布したプリントをしっかりと見直し、わからない言葉は辞書などで調べて流れを理解しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。授業中にレジュメと資料を配布する。 【参】 田中明彦・中西寛編『新国際政治経済の基礎知識』有斐閣 2004年 ISBN 4641183023、他、授業中に適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 現代史に関する基本的な事項と現代社会への影響を理解でき、自らの考えを論理的に説明できていれば合格とします。 <方法> 期末に実施する試験が60%、受講態度を40%とする。受講態度は時折実施する小テストの結果や感想文の提出状況で評価する。	
備考	定期試験までに読書レポートを提出していない学生は試験を受けることができない。	

科目名	国際社会と人権	
担当者	中野 進 / NAKANO, Susumu	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	21世紀の国際社会が緊密になればなるほど、国際社会の法である国際法の重要性は増大するでしょう。国際法の重要性に少しでも気付いて下さい。
	到達目標	現代においては、国内社会の他に国際社会も存在することが理解できる。国際問題の理解が容易になる。
授業計画	(1) 国際法の基礎知識 (2) 国連憲章 (3) 植民地人民の自決権 (4) 国民の自決権 (5) 植民地独立としてのナミビア問題 (6) 植民地独立としての東チモール問題 (7) 植民地独立としての西パプア問題 (8) 植民地分裂としての太平洋諸島問題 (9) 国民による政府変更としての南アフリカ問題 (10) 国家合併としてのザンジバル・タンガニーカ問題 (11) 分離独立としてのビアフラ問題 (12) 自決権の主体 (13) 自決権と自衛権 (14) 自決権の歴史的役割 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・4回おきに小レポートを課す。
使用教材・参考文献	【教】 中野進『国際法上の自決権[増訂新版](普及版)』信山社 2006年 443407735X 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 出席しない者は不合格とする。 <方法> テスト(80%)、レポートなど(20%)	
備考	予習と復習を行ない、且つ、問題点を自分で考える習慣を身に付けるように心掛けて下さい。教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	生涯教育	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	「学ぶ」ということの意味を考えながら、生涯教育・生涯学習の内容・方法・環境・問題について解説する。そして、生涯教育・生涯学習の観点から、これまでではどのような状態だったか、これからの人生をどう歩むのか、自分自身を見つめ直してもらう。
	到達目標	①生涯教育・生涯学習に関する基礎知識を身に付ける。 ②豊かな人生とはどのようなものか、大学生はどのような時期か、社会を逞しく生き抜くにはどのような力が必要か等、生涯における人間形成と自己について考える習慣をつける。
授業計画	(1) なぜ学ぶのか (2) 生涯学習の概念と生涯教育の捉え方 (3) 生涯の各時期における学習課題 (4) 生涯設計と大学生活 (5) おとなの学びと学習方法 (6) 学習成果の評価と活用 (7) 生涯学習社会における学校・家庭・職場・地域 (8) 社会教育・生涯学習政策の歴史的展開 (9) 生涯学習の施設 (10) 生涯学習の団体と人的支援 (11) 生涯学習の現代的課題 (12) 生涯学習論と学習権 (13) 世界の生涯学習 (14) 生涯学習のネットワーク (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・参考文献と毎回のレジュメをもとに、生涯学習社会において自分はどうに過ごしていくのか考察しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 関口礼子他著『新しい時代の生涯学習』有斐閣 2002年 【参】 堀薫夫・三輪健二編著『生涯学習と自己実現』放送大学教育振興会 2006年 ほか、適宜、紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 毎時、積極的にコメントを記入して、自分で考え実践する姿勢を示し、定期試験で基礎知識の習得を確認できた場合に合格とする。 <方法> 出席態度45%、コメント15%、テスト40%。	
備考	・将来の進路選択は、自己を分析して高めようとする習慣がないと苦勞するが、あれば円滑に進む。そこで、その足がかりとするために、どの時間も有効に使って、真剣に前向きに自分と向き合ってほしい。 ・定期試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	開発教育	
担当者	岩橋 恵子 / IWAHASHI, Keiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	地球社会における支配・従属関係や不公平や叫ばれて久しい。本授業では、なぜこのような問題（一般に「南北問題」といわれる）が起こるのか、それは私たちの生活とどのように関わりがあるのか、問題を解決するために私たちに何ができるのかを考える。
	到達目標	世界の格差問題の現状とその原因を理解する。 私たちの生活と地球上の問題とのつながりを理解する。
授業計画	(1) 南北格差と貧困問題 (2) 貧しさとは何か、豊かさとは・・・ (3) バナナはなぜ安いのか (1) (4) 同 (2) (5) 公正な貿易「フェアトレード」 (6) なぜ世界には多くの子どもが働いているのか (1) (7) 同 (2) (8) 原子力発電問題をグローバルに見てみると (9) 世界と日本のエネルギー開発のこれから (10) 開発とは何かー経済開発から持続可能な開発へー (11) 国際開発援助ーODA (12) 青年海外協力隊 (13) 国際開発「援助」から、「協力」「共同」へーNGO (14) 開発教育の歴史と意義 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 田中治彦『開発教育』学文社、2008年／開発教育協会年報『開発教育』他、授業中に紹介する。 【参】 開発教育協会年報『開発教育』他、授業中に紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 南北格差の現状とその原因を理解しまとめることができる。 問題解決のための自分なりの見解を表現することができる。 <方法> 授業中に課す小レポート20点、読書レポート20点、最終試験60点	
備考		

科目名	高齢者と社会	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	①高齢者人口の絶対的な多さが政治・経済・社会・文化に及ぼすインパクトを押さえる。 ②高齢社会に「老いる」ことの高齢者にとっての意味や、「誰でもその生き方を模索し、老いや死を迎える」ことを考える。 ③真の豊かさ、生き甲斐、優しさとは何かを自らの問題として考え、社会人として高齢者を理解し、その社会に寄与することのできる態度を考える。
	到達目標	・高齢者問題を通して日本社会の構造を理解できる。 ・日本の「高齢社会から超高齢社会へ」の状況について、大学生らしい説明ができる。 ・高齢者問題が学生にも身近な問題であることの説明ができる。 ・ワークショップにより、コミュニケーション力の重要性を実感する。
授業計画	(1) イントロダクションー急増する高齢人口・急速に進む人口高齢化 (2) 何が高齢社会化を可能にしたかー高齢社会への道のりとその背景 (3) 高齢社会の文化的特徴ー「若さと生の賛美」から「生」の意味を問い直す文化へ (4) 「高齢者」とはどのような人かー「老化」とは・「老い」とは (5) 「私」の行方ー認知症高齢者のこころ (6) 認知症問題への社会的対応を巡って (7) 高齢者の生活史は生きてきた社会の社会構造を反映①ー拡大する健康・経済・社会関係の格差 (8) 高齢者の生活史は生きてきた社会の社会構造を反映②ー高齢者問題は女性問題 (9) 消費者としての高齢者の登場 (10) 高齢者も世代交代する (11) 高齢者の高齢者の[孤立・孤独]①ー日本の高齢者と家族・近隣関係の特徴 (12) 高齢者の高齢者の[孤立・孤独]②ー高齢者の自殺・犯罪・犯罪被害 (13) 高齢者問題の「当事者組織」の活動が社会を動かす (14) ワークショップーKJ法による「高齢者問題」の見取り図作成 (15) 総まとめー高齢社会は豊かな社会か？ 貧しい社会か？	
自学自習	事前学習	毎回、新聞・TVでの高齢者関連のニュースに目を通しておくこと。
	事後学習	授業に出てきた用語や概念、取り上げた社会事象については、よく復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】	使用しない。 大井玄『「痴呆老人」は何を見ているか』新潮新書, 2008年, ISBN 9784106102486 河島修『高齢者の現代史』明石書店, 2001年, ISBN 9784750314754 沖藤典子『介護保険は老いを守るか』岩波新書, 2010年, ISBN 9784004312314 小橋 賢『老いの歌：新しく生きる時間へ』岩波新書, 2011年, ISBN 9784004313274 袖井孝子『高齢者は社会的弱者なのか：今こそ求められる「老いのプラン」』ミネルヴァ書房, 2009年, ISBN 9784623053414
成績評価方法と基準	<基準> 科目の目標到達を重視する。到達していない者は不合格となる。 <方法> 定期筆記試験80%、①新聞記事切抜提出課題10%、②ワークショップ参加課題10%。	
備考	次の2課題の遂行を求める。 ①高齢者に関連する新聞記事を、毎回コメントをつけて提出する。 ②定期筆記試験日までに読書紹介レポートを提出していること(提出を試験受験の条件とする)。	

科目名	障害者と福祉	
担当者	佐々木 美智子 / SASAKI, Michiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	日本は国連の「障害者権利条約」批准により新たな歴史をスタートさせました。これまでの歴史も振り返りながら、障害のある人々と共同して権利を保障する福祉のあり方を学びます。
	到達目標	学習者は、障害のある人々の尊厳と権利がうちたてられてきた歴史と現状、それがすべての人々の権利保障と深く関連していることを毎回のテーマごとに理解し、各自の問題意識を深めてレポートにまとめる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 障害のある人々はどう生きてきたか～その1 (3) 障害のある人々はどう生きてきたか～その2 (4) 学齢期の発達保障 (5) 乳幼児期の発達保障 (6) 青年・成人期の発達保障 (7) 支援費制度から障害者自立支援法へ (8) 東日本大震災と障害のある人々 (9) 障害者総合福祉法の骨格に関する提言、改正障害者基本法 (10) 障害者総合支援法 (11) 国連「障害者の権利条約」 (12) 障害のある人々と貧困問題 (13) 高齢者介護と障害者福祉 (14) 21世紀の展望 (15) まとめと終講レポート提出	
自学自習	事前学習	テキストや参考資料を前もって読んでおくこと。
	事後学習	毎回提供するプリント、返却する感想文を再読すること。
使用教材・参考文献	【教】	障害者生活支援システム研究会編「権利保障の福祉制度創造をめざして〔提言〕障害者・高齢者総合福祉法」(かもがわ出版、2013)
	【参】	
成績評価方法と基準	<基準>	毎回のテーマ内容を理解し、全体を通して自らテーマを設定した終講レポートにまとめたものは合格とします。
	<方法>	毎回の受講感想文(30点)、新聞記事学習(10点)、終講レポート(60点)の総合評価とする。
備考	教員が指示する「読書」課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	現代社会とジェンダー	
担当者	佐々木 美智子 / SASAKI, Michiko	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	性の生物学的側面を指す s e x と区別し、社会・文化的側面を重視する概念genderが、21世紀社会がより公正で持続可能なあり方で発展するために重要であることを、歴史的にまた様々なテーマごとに学ぶ。
	到達目標	学習者は、性による差別が歴史的にどのように問題となり、克服されてきたかを理解し、現代社会の新たな課題とその解決の道を、国内外の様々なとりくみに学びながら主体的に考え、意見をまとめる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) ジェンダー概念の登場の歴史 (3) 鹿児島家族の歴史～西郷隆盛に見る (4) 鹿児島家族の歴史～勝目テルと中村きい子に見る (5) 日本国憲法とジェンダー (6) 日本の女性運動 (7) 国連「女性差別撤廃条約」 (8) 「男女共同参画社会基本法」 (9) 現代の課題～子育て支援 (10) 現代の課題～学校教育 (11) 現代の課題～労働 (12) 現代の課題～障害のある人々 (13) 現代の課題～介護 (14) グループ・ワーク (15) まとめと終講レポート提出	
自学自習	事前学習	使用教材・参考文献を前もって読んでおくこと。各自の自主的情報収集に期待する。
	事後学習	毎回の授業プリントや返却された感想文を再確認すること。
使用教材・参考文献	【教】	授業開始時に指定する。
	【参】	河野美香『女の一生の「性」の教科書』（ブルーバックス、2012年）、竹信三重子『家事労働ハラスメント』（岩波新書、2013年）
成績評価方法と基準	<基準>	毎回のテーマごとの理解、および自主的な学習やグループワークへの参加、レポート作成によって合格とみなします。
	<方法>	毎回受講感想文を提出していただき、グループ・ワーク発表、終講レポートと合わせて総合評価する（平常点30点、グループ・ワーク10点、終講レポート60点）。
備考	教員が指示する「読書」課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	税のしくみ	
担当者	井上 隆 / INOUE, Takashi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	国税・地方税の概要・趣旨等を学ぶ。
	到達目標	国税・地方税の概要・趣旨等を理解することで、税の存在意義等について理解を深める。 各税目の研究を行う際、研究を円滑に進めるレベルに到達する。
授業計画	(1) 租税 (2) 租税体系 (3) 税法の法体系 (4) 所得税 (5) 法人税 (6) 相続税と贈与税 (7) 消費税 (8) 酒税 (9) 印紙税 (10) その他の国税 (11) 国際課税 (12) 税務行政の概要 (13) 税務行政の組織と権限 (14) 地方税の概要 (15) 財政の仕組みと役割	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義で明らかになったキーワードを基に使用教材を再読すること。
使用教材・参考文献	【教】 国税庁HP/税務大学校/税大講本/税法入門を各自ダウンロードし印刷すること。 【参】 金子 宏 『租税法〈第18版〉』2013年4月刊 弘文堂 ISBN: 978-4-335-30456-9 C1332	
成績評価方法と基準	<基準> 国税・地方税の概要・趣旨等を習得した者を合格とする。 <方法> 出席状況とテストの結果により判断する(受講態度50%、試験結果50%)。	
備考	定期試験において、使用教材を読書していないと解答できない問題を課す。	

科目名	新聞で読み解く現代	
担当者	小山 正俊 / KOYAMA, Masatoshi	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考法を身に付けている	
科目概要	授業内容	就職活動では新聞記事について問われることが多々ある。そこでは単なる知識が問われているのではなく、社会の出来事について、どのように考え、どのように表現するかが問われている。 先ず、活字媒体の新聞を楽しく読み、記事内容を理解する。 時事用語の解説や、現役の新聞社員による講義も交える。
	到達目標	新聞記事を通して地域社会の出来事に興味を持てる。 新聞記事に出ている基本的な用語を理解できる。 新聞記事の内容を自分で調べて概要を記述し、第三者に説明できる様になる。
授業計画	(1) オリエンテーション 講義の進め方 (2) 新聞の構成 南日本新聞社 (3) 新聞を楽しく読む 南日本新聞社 (4) 記事を要約する (5) 発表 (6) 南日本新聞社員の講話～事件は現場で起こっている (7) 新聞記事から描かれる現在の社会制度 南日本新聞社 (8) 自分でテーマを探して要約する (9) 発表 (10) 南日本新聞社員の講話～現場から社会を見る (11) 地域経済と住民との関わり 南日本新聞社 (12) 記事を要約する (13) 発表 (14) プレゼンテーション (15) プレゼンテーション	
自学自習	事前学習	・新聞を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・取り上げたテーマ・内容について、授業中に紹介する資料・文献・論文などで理解を深めること。
使用教材・参考文献	【教】 「南日本新聞」を主として教材とする。適宜全国紙（日経新聞等）も取り上げる。 【参】 講義中に指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 新聞記事から題材を選択して、第三者に説明できるものを合格とする <方法> レポートの内容80%、受講態度20%	
備考	就職活動に適した内容なので3年生も履修して欲しい。 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	ボランティア企画実習	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 後期 / 演習・実習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている。	
科目概要	授業内容	本講では、地域におけるボランティア活動に関わる、社会的背景、心理的問題について解説する。それを踏まえて、グループによるボランティア活動の企画・実施に取り組む。
	到達目標	鹿児島の地域課題について理解を深める。また、地域課題を解決するための具体的な方法を考え、実践する過程で、地域の一員としての自覚を高めるとともに、問題解決に不可欠な企画力およびコミュニケーションやリーダーシップの技術を高める。
授業計画	(1) ボランティア活動を取り巻く社会的背景 (2) 鹿児島におけるボランティア活動の実際 (1) (3) 鹿児島におけるボランティア活動の実際 (2) (4) ボランティア活動計画 (5) ボランティア活動準備 (1) (6) ボランティア活動準備 (2) (7) ボランティア活動準備 (3) (8) ボランティア活動報告と振り返り (1) (9) ボランティア活動報告と振り返り (2) (10) ボランティア活動報告と振り返り (3) (11) ボランティア活動報告と振り返り (4) (12) ボランティア活動報告と振り返り (5) (13) ボランティア活動報告と振り返り (6) (14) ボランティア活動報告と振り返り (7) (15) まとめ	
自学自習	事前学習	ボランティア活動には社会的な責任が伴うので、入念な計画・準備を心がけること。
	事後学習	ボランティア活動の実施過程で、気づいた課題を文章化し、今後の展開に活かすこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 安藤雄太『ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房	
成績評価方法と基準	<基準> グループでのボランティア活動において、自らの役割を明瞭に認識し、いかなる貢献をし、何を学んだかを言語化できるだけの活動成果を上げたものを合格とする。 <方法> 読書レポート (10%)、ボランティア活動計画 (10%)、ボランティア活動実績 (80%)	
備考	ボランティア活動の実習はグループで、授業時間外に行います。授業時間には活動計画の作成や、活動実施報告、振り返りを行います。読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	まちづくり企画実習	
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro	
科目情報	教養科目2群 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	この授業では地域調査法について学び、実際の地域においてこれを実践し、受講者間で協議をしながらまちづくりの方法について考え、プレゼンテーションを行います。
	到達目標	①人と協力して調査を行うコミュニケーション能力を養い、②地域の問題を理解し、対策を考えていける問題解決力を伸ばし、③自らの考えを発信していけるプレゼンテーション能力を身につけることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地域調査法Ⅰ (3) 事前調査① (4) 事前調査② (5) 事前調査結果協議 (6) 地域調査法Ⅱ (7) 聞き取り調査① (8) 聞き取り調査② (9) 聞き取り調査③ (10) 聞き取り調査結果協議 (11) プレゼンテーション準備① (12) プレゼンテーション準備② (13) プレゼンテーション (14) プレゼンテーションの改善協議 (15) 最終プレゼンテーション	
自学自習	事前学習	・地域に関する情報を検索しておくこと。
	事後学習	・他の受講者とディスカッションをしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 参考文献は特に指定しない。	
成績評価方法と基準	<基準> 地域のことを理解し、調査を行い、プレゼンテーションができることを基準とします。 <方法> 受講態度20%、調査参加30%、プレゼンテーション50%	
備考	実習科目のため、授業時間外に調査活動を行う必要があります。	

科目名	文系学生のための数学の世界	
担当者	内田 豊海 / UCHIDA, Toyomi	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	数学の様々なトピックを取り上げ、数学の楽しさに触れるとともに、社会生活における有用性を確認し、実際にそれを用いる力を育成する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の楽しさを知る ・数学が役に立つことを実感する ・実践で活用する力を養う
授業計画	(1) 講義の概要と目標 数学の楽しさって何だろう (2) 世界中の数の誕生と進化 (3) 身の回りに潜む不思議な数のパターン (4) 図形：迷路の解き方 (5) 図形：タングラムで作られるいろいろな形 (6) 確率：カラオケで好きな人の隣に座る確率は？ (7) 統計：人口変動から鹿児島市の市町村の未来を占おう (8) 関数：いろいろな現象を式で表そう (9) 微分積分：体型と体積の関係 (10) 基数：パソコンは何で動くの？ (11) 図形：様々な角度を求めよう (12) 数列：フィボナッチ数と黄金比 (13) オープンエンドな問題：データを見て選手を選ぼう (14) オープンエンドな問題：投票結果から選挙法を選ぼう (15) 数学と価値：生きる上で数学はなんの意味があるの？	
自学自習	事前学習	前時終了時に指示する
	事後学習	適宜復習、及び授業中に課題を提示する
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。 【参】 中学校、高校で使った数学の教科書、参考書	
成績評価方法と基準	<基準> 授業中に学修した内容を理解し、問題解決を図れることができる者を合格とする。 <方法> テスト60%、課題20%、受講態度20%	
備考	特になし	

科目名	確率と統計の基礎	
担当者	近藤 正男 / KONDO, Masao	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	自然現象や社会現象の実態を解明するために、観察・実験・調査が行われる。その結果得られる資料を統計的に処理する必要に迫られる場合が少なくない。また、社会が複雑さの度を増し、人間の自然認識が深まるにつれて、自分達をとりまく膨大な情報・資料を分析し、合理的な判断をするためにも事物を統計的に観る目が要求されるであろう。統計学はそのための理論と応用を研究する学問である。本講はその初歩的解説を行うものである。
	到達目標	基本的なデータ処理ができるようになる。 分布の基本的な特性値の意味を理解する。 確率に関する基本的な概念や法則を理解する。 確率変数と基本的な確率分布を理解する。 統計モデルと統計的推定・検定の概念を理解する。
授業計画	(1) データの整理 (母集団と標本, データの種類・尺度・形式) (2) データの整理 (分布の特性値 (代表値, 散布度)) (3) データの整理 (分布の特性値 (形状), 標準化) (4) データの整理 (相関係数, 回帰直線) (5) 確率 (確率の定義, 条件付確率) (6) 確率変数と確率分布 (確率変数, 確率分布) (7) 確率変数と確率分布 (離散型確率変数の分布) (8) 確率変数と確率分布 (連続型確率変数の分布) (9) 母集団と標本 (標本平均の分布) (10) 母集団と標本 (正規母集団から導かれる標本分布) (11) 統計的推定・検定 (点推定, 区間推定, 検定) (12) 統計的推定・検定 (比率の推定・検定) (13) 統計的推定・検定 (平均, 分散の推定・検定) (14) 統計的推定・検定 (適合度の検定, 独立性の検定) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	【教】 稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄著「統計学入門」 裳華房, 1992年 ISBN 4-7853-1075-8 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標が達成されたものは合格とします。 <方法> <方法>小テスト・レポート (40点) 期末試験 (60点)	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	科学史	
担当者	八田 明夫 / HATTA, Akio	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「自然科学史」)	
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	物質の本質についての物質観, 物体の運動やエネルギーについての運動観, 生命の歴史についての生命観, 地球や宇宙の進化についての地球・宇宙観に関する科学の歴史を学ぶ
	到達目標	物質観, 運動観, 生命観, 地球・宇宙観に関して, 自分なりの説明ができるようになること
授業計画	(1) 物質を人はどう捉えてきたか(1) 古代のバビロニア・エジプト (2) 物質を人はどう捉えてきたか(2) ギリシア・アテナイ・ローマ (3) 物質を人はどう捉えてきたか(3) 錬金術から化学革命へ (4) 運動を人はどう捉えてきたか(1) 運動と変化の区別 (5) 運動を人はどう捉えてきたか(2) インペトウス (6) 運動を人はどう捉えてきたか(3) ニュートン力学 (7) 運動を人はどう捉えてきたか(4) 相対性理論・量子論 (8) 生物を人はどう捉えてきたか(1) アリストテレスの生命観 (9) 生物を人はどう捉えてきたか(2) 血液循環学説、生体の構造と機能 (10) 進化を人はどう捉えてきたか(1) 細胞説、発生学、個体発生の研究 (11) 進化を人はどう捉えてきたか(2) 種の進化、現代生物学 (12) 地球を人はどう捉えてきたか(1) 丸い地球は早くから知られていた (13) 地球を人はどう捉えてきたか(2) 地球の形から内部構造まで (14) 宇宙を人はどう捉えてきたか(1) コペルニクス以前の宇宙体系 (15) 宇宙を人はどう捉えてきたか(2) 現在の宇宙観	
自学自習	事前学習	「科学の歴史に関する文献」を読んでおくこと。
	事後学習	・新しく学んだ事項に関して、他の文献等ではどのように記述されているか学習すること。 ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 メイスン「科学の歴史」(上・下)、 アイザック・アシモフ「科学と発見の年表」など。	
成績評価方法と基準	<基準> 受講態度、小テストと試験で評価する。 3分の2以上の出席をすること。 <方法> テスト60%、受講態度20%、小テスト20%。	
備考		

科目名	人間と進化	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	人間の社会、文化の様々な面に実はヒトの生物学的特徴が反映されている。本講義ではヒトの進化について見ながら人間(現代人)に共通する生物学的特徴について考察する。また、講義を通して進歩的なイメージでとらえられがちな「進化」現象の本来の意味についても知ってもらいたい。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間(現代人)の生物学的側面の特徴について知る。 ・「進化」のメカニズムについて理解する。
授業計画	(1) 「進化」の意味 (2) ヒトとは (3) 霊長類の多様性① (4) 霊長類の多様性② (5) 霊長類の多様性③ (6) 進化の理論、進化の過程で起こってきたこと (7) 霊長類の進化 (8) ヒト化(ホミニゼーション)の理論 (9) ヒトの進化 (10) 脳の進化について (11) 現代人の変異の進化的背景 (12) 心理・行動の進化的背景① (13) 心理・行動の進化的背景② (14) 現代人のライフサイクルからみた人間性の本質 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。 【参】 A. Zihlman著 木村邦彦監訳『カラースケッチ ヒトの進化』廣川書店 1987年 長谷川寿一・長谷川真理子『進化と人間行動』東京大学出版会 2000年 馬場悠男編『別冊日経サイエンス 人間性の進化』日経サイエンス社 2005年	
成績評価方法と基準	<基準> 上記到達目標に応じた期末テストにおいて60点以上の者を合格とする。また、授業中提示する「読書課題」を提出することが評価の前提となる。 <方法> 期末テスト	
備考		

科目名	生物の多様性	
担当者	横峯 孝昭 / YOKOMINE, Takaaki	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「生物学」)	
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	地球上に生命が誕生してから三十数億年。進化しながら現在200万以上に種分化している。あらゆる生物種、それによって成り立っている生態系、それを過去から未来へと伝えてきた遺伝子を理解し、生物多様性を理解していきたい。
	到達目標	生物の多様性を分類学的・遺伝学的に学習することで、種が千差万別でありながらも相互依存関係にあること、生物はもともと共通の祖先から分かれてきたことを理解できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション・鹿児島の生き物 (2) 種とは何か (3) 品種とは何か (4) 生物の進化について (5) 生物の定義について (6) 生物の代謝① (7) 生物の代謝② (8) 細胞分裂 (9) 生殖細胞 (10) 遺伝的多様性① (11) 遺伝的多様性② (12) 生物の系統 (原核生物・原生生物) (13) 生物の系統 (菌類・植物) (14) 生物の系統 (動物) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書を使用しないため、ノート＝教科書となる。そのノートの整理、読み直しをしておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。 【参】 伊藤嘉昭著「生態学と社会」1994年 東海大学出版会 ISBN9784486012726	
成績評価方法と基準	<基準> 生物における基本的な細胞・代謝・遺伝を理解していることを合格とします。これらを、自らの言葉でいい表せてない場合は不合格とする。 <方法> 終了試験70%。受講態度30%	
備考		

科目名	脳の科学	
担当者	山口 勝機 / YAMAGUCHI, Katsunori	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	脳の構造、情報伝達の仕組み、大脳皮質、記憶と本能などについて学ぶ。
	到達目標	脳の構造を知ることにより、情報の伝わり方、大脳皮質にある働きまた記憶や本能などの働きが大脳のどこの部位と関係しているかについて理解を深める。
授業計画	(1) 脳とは何か (2) 脳のエネルギー源 (3) 脳は細胞でできている (4) 神経細胞と臨界期 (5) 大脳皮質の働き (6) 交叉支配の原則 (7) 左半球の働き (8) 右半球の働き (9) 意欲と前頭連合野 (10) 大脳辺縁系の働き (11) 海馬と記憶 (12) ワーキングメモリー (13) 扁桃核と感情 (14) 視床下部と本能行動 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容に関連する図書を読むこと。
使用教材・参考文献	【教】 福永篤志 『脳のしくみ』 2012年 ナツメ社 【参】 ジル・ボルト・テイラー 『奇跡の脳』 2012年 新潮文庫 ISBN978-4-10-218021-1	
成績評価方法と基準	<基準> 大脳の基本的な働きが理解できたものは合格とする。 <方法> 筆記試験により判定する。	
備考		

科目名	こころの世界（Aクラス）	
担当者	石井 利文 / ISHII, Toshifumi	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	こころとは何か、心理学とは何かをわかりやすい身近な日常生活に沿って学び、こころの世界を探访する。心理学においては人間のみならず動物もその対象とするが、本講義では主として人間のこころについて考える。
	到達目標	1. こころについての基礎的な知識が得られる。 2. 心理学に関する基礎的な知識が得られる。
授業計画	(1) こころの世界を探る (2) こころとからだの発達 ① (3) こころとからだの発達 ② (4) 私らしさの形成 ① (5) 私らしさの形成 ② (6) こころをとらえる ① (7) こころをとらえる ② (8) 人をかりたてるもの ① (9) 人をかりたてるもの ② (10) 学ぶことのしくみ ① (11) 学ぶことのしくみ ② (12) 学ぶことのしくみ ③ (13) わかることと考えること (14) 人と人との結びつき (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	【教】 山崎 晃・浜崎隆司(編著)『新・はじめて学ぶこころの世界』北大路書房 2006年 ISBN 4-7628-2528-X 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標を踏まえて、こころについての基礎的な知識を得たものを合格とする。 <方法> 受講態度（30点）と期末レポート（70点）で評価する。	
備考	教員が指示する『読書課題』の遂行が成績評価を受けるための前提となる。詳細は初回の授業で説明する。	

科目名	こころの世界	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている。	
科目概要	授業内容	人の心の動きについて、勉強やスポーツ等、日常的な場面における具体例の解説や小実験をまじえて紹介する。
	到達目標	人の心の動きについて、科学的な視点から理解を深めるとともに、その理解を自らの生活の中で積極的に活かす態度を身に付ける。
授業計画	(1) こころをいかにとらえるか (2) 物覚えのこつ (1) (3) 物覚えのこつ (2) (4) 学びのこつ (1) (5) 学びのこつ (2) (6) やる気の源 (1) (7) やる気の源 (2) (8) 子どもから大人へ (1) (9) 子どもから大人へ (2) (10) 適応するということ (1) (11) 適応するということ (2) (12) つながりあう人と人 (1) (13) つながりあう人と人 (2) (14) 支え合う人と人 (1) (15) 支え合う人と人 (2)	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくとう理解の助けになります。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容について質問するので配布資料を見直しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。 【参】 山崎 晃・浜崎隆司(編著)『新・はじめて学ぶこころの世界』北大路書房 2006年	
成績評価方法と基準	<基準> 人の心の動きについての基礎的な知識を得たものを合格とします。 <方法> 本講で解説した人の心の動きについての知識の理解を評価する。(受講態度45%、読書レポート10%、筆記試験45%)	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	こころの健康	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide 松元 理恵子 / MATSUMOTO, Rieko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている。	
科目概要	授業内容	現代(今)という時代ほど、「こころとは」「こころが傷つくとは」といった問いについて、向かい合い考えていくことが求められている時代はないと思います。本講義では、人との関わりの中で傷ついたり癒されていく「こころ」の「しくみ」や「やりくり(マネージメント)」について、ワーク(体験)を取り入れながら理解を深めていきます。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころ」について、主に臨床心理学的観点から、その「しくみ」や「ストレス」について学ぶ。 ・ 「こころ」と「身体」の関連について学ぶ。 ・ ストレスについてライフサイクルとの関連から学ぶ。 ・ 心理テストを用いて、自分の「こころ」眺める体験をする。 ・ ストレスマネージメントを体験的に学ぶ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「こころ」というものの存在について体験的学習 (2) 臨床心理学的観点から「こころ」の構造や機能について学ぶ (3) 意識-前意識-無意識, コンプレックスについての学習 ① (4) 意識-前意識-無意識, コンプレックスについての学習 ② (5) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ① 抑圧 (6) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ② ヒステリー (7) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ③ 心身症 (8) 現代社会とストレス (9) ライフサイクルとストレス (10) 大学生というライフサイクルの時期とそれ以降の発達課題 (11) ストレスマネージメントのための自分理解 ① タイプA (12) ストレスマネージメントのための自分理解 ② エゴグラム (13) 自律訓練法の体験的学習 (14) 「うつ」「心的外傷」についての対処方法 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ 毎回の授業の終わりに、その回の授業内容についての感想・質問を小レポートで提出し、次回の授業冒頭で解説を行う。
使用教材・参考文献	<p>【教】 特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。</p> <p>【参】 北山修 1999 『心の消化と排出』創元社</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 「こころ」の健康に関して、講義の到達目標の5項目の理解修得が達成されたものを合格とする。</p> <p><方法> 受講態度(40%) 総括レポート(60%)</p>	
備考	「教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。」	

科目名	環境と法	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	現代社会において早急な解決を求められている問題の一つが環境問題である。本講義では、環境問題に対して法的側面からのアプローチを行い、その理解を進める。DVD等の機器を適宜使用する予定である。
	到達目標	本講義を通じて環境問題と法との関係を指摘できる。
授業計画	(1) 環境と法を学ぶためのオリエンテーション (2) 近代市民社会 (3) 環境権 (4) 新しい人権 (5) 人類の繁栄 (6) 繁栄の限界 (7) 化石燃料の消費 (8) 食糧問題 (9) 経済成長の限界 (10) 資源枯渇 (11) 大気汚染 (12) 熱帯林の消失 (13) 京都議定書 (14) 国連気候変動枠組み条約 (15) 環境法	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 竹下賢『第4版・入門法学』晃洋書房 2014年 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 環境問題と法との関係が理解できたものは合格とする。 <方法> 受講態度(30%)、レポート(70%)	
備考	席する。 教科書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。 教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	自然環境のしくみ	
担当者	宗 建郎 / SO, Tatsuro	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	教養科目「受講生参加科目」 / 学芸員科目 / 選択（法定科目名「地学」）	
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	①地球の構造，②地形の形成，③気候と気象の三つのテーマについて，これらの仕組みを地学的アプローチから見ると共に，人間の生活に与える影響についてお話しします。
	到達目標	①自然環境形成の仕組みについて論述できることと②自然環境と人間生活の関係について論述できることの二点を目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地球を描く (3) 大地の形成 (1) —プレートテクトニクス (4) 大地の形成 (2) —地球の構造 (5) 日本列島の形成 (6) 地形営力 (7) 火山とその地形1 (8) 火山とその地形2 (9) 断層と褶曲 (10) 外力による地形形成 (11) 地形営力と災害 (12) 気候と気象 (1) —大気循環の基礎 (13) 気候と気象 (2) —地球の運動と大気循環 (14) 気候と気象 (3) —水の循環 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみる。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。 【参】 鎌田浩毅『地学のツボ』ちくまプリマー新書，2009年。	
成績評価方法と基準	<基準> 到達目標に従って自分の言葉でまとめることができることを基準とします。 <方法> 試験50%，読書レポート30%，受講態度20%で評価します。	
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とします。読書課題については授業中に指示します。	

科目名	生と死	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期or後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	生と死の諸問題について、より具体的な状況で生じる問題と、それへの対応について考える。特に医療における倫理的考察の可能性を探る。
	到達目標	生と死における諸場面において、倫理的問題を指摘できる。
授業計画	(1) 生と死を学ぶためのオリエンテーション (2) 人間の尊厳 (3) バイオ・エシックス (4) 生命倫理学の成立 (5) アメリカにおけるバイオ・エシックス (6) 日本における生命倫理学 (7) 医療における倫理問題 (8) 生命の誕生を巡る問題 (9) 生殖補助医療 (10) 中絶胎児の医療への利用 (11) 生命の終焉を巡る問題 (12) 脳死・尊厳死・安楽死 (13) 病名告知 (14) がん告知 (15) 尊厳死	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 丸山マサ美・編『医療倫理学・第2版』中央法規出版 2009年 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 生と死と倫理との関係が理解できたものは合格とする。 <方法> 受講態度(30%)、レポート(70%)	
備考	第1回目の授業時にオリエンテーション(授業の受け方や単位の取り方などの説明)を行うので、必ず出席する。 教科書・ノートを事前に準備する。ルーズリーフは不可。	

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期・後期 / 講義・演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	健やかな生き方を求め、趣味・健康管理としてのスポーツが幅広く行われるようになり、自治体、民間を問わず施設やクラブづくりが盛んだ。授業では、これらの変化に関するテーマをグループごとに決め、学内外で実践を重ねて考察し発表する。
	到達目標	健康管理としてのスポーツを学び、高齢化、核家族化社会でのスポーツの移り変わりを理解する。 公営、市営を問わず増加するスポーツ施設を調査することによって、その背景、環境の変化を学ぶ。
授業計画	(1) ガイダンス (2) スポーツ概論 (I) (3) スポーツ概論 (II) (4) グループの編成：ワークシート、探求地図を用いてテーマを探す (5) グループ別ディスカッション：テーマ設定 (6) テーマ決定：課題、問題意識を示す (7) 研究方法 (例 ウォーキングの実践) アンケート作成 (8) 研究内容計画作成 (9) 学内の施設 (体育館、図書館等) において実践 (10) 中間発表・討論 (11) レポートの書き方、指導案作成、アンケート集計 (12) プレゼンテーションの仕方、資料準備 (13) 発表 (14) 発表 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	テーマに関連する資料や情報収集。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テーマに基づいた実践等。発表、提出物の作成他。
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。最初の授業時プリントを配布する。 【参】 授業中にその都度紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 発表・討議への参加とレポート提出を合格とし、いずれか欠くと不合格。 <方法> 出席態度 (60%) 発表・討議 (20%) 学期末レポート提出 (20%) など総合的に評価する。	
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 講義・演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	我が国の現代社会における特性を把握し、それによって起こる様々な疾病について知識を深め、正しい運動処方やストレス軽減としてのスポーツ活動が健康増進にどのような効果があるのか学習を行う。さらに、グループごとに問題となっているテーマに焦点をあて、現状や解決・改善策等の発表を行う。
	到達目標	自分自身の身体や目的に応じた運動種目や強度を選択できるだけでなく、心身の健康増進におけるスポーツ活動の関連性について理解する。討議に積極的に参加し、班員と協力して問題の探求にあたり、自班のテーマだけでなく他班のテーマについても理解し、互いの情報を共有できる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 筋収縮とエネルギー供給系 (3) 筋収縮とエネルギー供給系 (4) 筋線維の種類とその特徴 (5) 筋線維の種類とその特徴 (6) 筋の収縮様式と筋力 (7) 筋の収縮様式と筋力 (8) 発表 (9) 筋疲労の要因 (10) 運動と生活習慣病 (11) 運動と生活習慣病 (12) 運動処方 (13) 運動処方 (14) 発表 (15) 学習のまとめ	
自学自習	事前学習	テーマに関連する資料や情報収集。
	事後学習	発表、学期末テスト対策。
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。授業時の最初にプリントを配布する。 【参】 授業中に紹介を行う。	
成績評価方法と基準	<基準> 発表・討議への参加とテストの点数を総合的に評価する。 <方法> 出席態度 (30%) 発表・討議 (20%) 学期末テスト (50%)	
備考	定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験を受けることができない。	

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	松尾 美穂子 / MATSUO, Mihoko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文化・社会を理解するための基礎的教養	
科目概要	授業内容	健康志向の高まりの中、食と運動の両面が着目されているものの、日常生活の中でなかなか実践されていない状況、また間違ったダイエット情報の氾濫や軽んじられた食環境が現状である。運動生理学・栄養学を中心に理論的に学ぶとともに、グループワークを伴ったウォーキングの実践と調理体験を通して、健康づくり・生活習慣の見直し等をおこなう。
	到達目標	①運動生理学・栄養学についての基礎知識を得る ②学外ウォーキングを取り入れ、コースの下見・オリエンテーリングの実施などのグループワークをおこなう ③栄養学を踏まえた調理体験をし、栄養バランスのとれた食生活に対する関心や意識をより高める
授業計画	(1) ガイダンス (2) グループ分け・運動生理学Ⅰ (3) 運動生理学Ⅱ (4) 運動生理学Ⅲ (5) 学外ウォーキングⅠ (6) マップ作り (7) 学外ウォーキングⅡ (8) 運動生理学Ⅳ (9) 運動生理学Ⅴ (10) 栄養学Ⅰ (11) 栄養学Ⅱ (12) 栄養学Ⅲ (13) 栄養学Ⅳ (14) 栄養学Ⅴ・調理体験レポート① (15) 総まとめ・調理体験レポート②	
自学自習	事前学習	第2回, 第10回配布の冊子を前もって読んでおくこと
	事後学習	ほぼ毎回授業時の小レポート作成と相互評価, 調理体験, 他
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。講義中に配布する冊子を用いる。 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 総合評価(下欄に提示)60点以上のものは合格とする。 <方法> 終了試験の素点を主とし、提出物、グループ評価、出席を含めた受講態度などを加えて、総合的に評価する。評価の配分割合は、終了試験80%、提出物10%、グループ点10%とする。	
備考	第2回はグループ分けをおこなうので、特に欠席しないように努めること。「読書」は成績評価を受けるための前提とし、講義の中で説明をする。	

科目名	スポーツ&エクササイズA	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko 松尾 美穂子 / MATSUO, Mihoko	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 前期 / 実技 / 1単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で体を動かす機会が少なくなった今日、自ら進んで積極的にスポーツ活動に参加することによって、基礎体力や運動技術の向上、運動の楽しさ、明るい人間関係、仲間づくりなどを体得し、心身の健康維持・増進を図る。 ・バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などから一種目を選択し、リーダーを中心としたグループで活動していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通じてリーダーを養成し、1人一役制で全員が運営に関わり責任を果たす。 ・各スポーツのルールを理解、練習方法の工夫、技術の習得を図る。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 種目選択、グループ編成、役割分担 (3) 手さぐり期・年間計画づくり ※準備運動から基礎練習への流れづくり (4) 手さぐり期 (5) 手さぐり期 (6) 手さぐり期 (7) 充実期・年間計画の見直し ※応用練習から簡易ゲームへの移行 (8) 充実期 (9) 充実期 (10) 充実期 (11) 仕上げ期 ※ゲーム中心 (12) 仕上げ期 (13) 仕上げ期 (14) 仕上げ期 ※(3)～(15)は各グループで個別に計画を立てる。計画 (15) 総まとめと実践について毎時間チェックし修正を加えていく。 	
自学自習	事前学習	選択した種目の基本技術、ルール、ゲームの進め方などについて学習しておくこと。
	事後学習	スポーツ全般に関心を持ち、各メディアを見聞き広く情報を得ること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 使用しない</p> <p>【参】 使用しない</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> ・出席態度を重視するため、体調が悪いときは見学または活動補助などの形で出席すること。 ・個人の実技評価はしない。</p> <p><方法> ・出席態度80%、グループ点20%</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目は、体育館シューズに履き替えて集合すること。また、種目選択およびグループ編成のため、極力欠席しないよう努めること。 ・教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。 	

科目名	スポーツ&エクササイズB	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko 倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目3群 / 選択 / 後期 / 実技 / 1単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で体を動かす機会が少なくなった今日、自ら進んで積極的にスポーツ活動に参加することによって、基礎体力や運動技術の向上、運動の楽しさ、明るい人間関係、仲間づくりなどを体得し、心身の健康維持・増進を図る。 ・バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などから一種目を選択し、リーダーを中心としたグループで活動していく。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通じてリーダーを養成し、1人一役制で全員が運営に関わり責任を果たす。 ・各スポーツのルールを理解、練習方法の工夫、技術の習得を図る。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 種目選択、グループ編成、役割分担 (3) 手さぐり期・年間計画づくり ※準備運動から基礎練習への流れづくり (4) 手さぐり期 (5) 手さぐり期 (6) 手さぐり期 (7) 充実期・年間計画の見直し ※応用練習から簡易ゲームへの移行 (8) 充実期 (9) 充実期 (10) 充実期 (11) 仕上げ期 ※ゲーム中心 (12) 仕上げ期 (13) 仕上げ期 (14) 仕上げ期 ※(3)～(15)は各グループで個別に計画を立てる。 (15) 総まとめと実践について毎時間チェックし修正を加えていく。 	
自学自習	事前学習	選択した種目の基本技術、ルール、ゲームの進め方などについて学習しておくこと。
	事後学習	スポーツ全般に関心を持ち、各メディアを見聞き広く情報を得ること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 使用しない</p> <p>【参】 使用しない</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> ・出席態度を重視するため、体調が悪いときは見学または活動補助などの形で出席すること。 ・個人の実技評価はしない。</p> <p><方法> ・出席態度80%、グループ点20%</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目は、体育館シューズに履き替えて集合すること。また、種目選択およびグループ編成のため、極力欠席しないよう努めること。 ・教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。 	

科目名	メディアと情報伝達	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi 近藤 諭 / KONDOU, Satoru	
科目情報	教養科目4群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	教養科目「受講生参加科目」 / 司書資格科目 / 選択 (法定科目名「図書館基礎特論」)	
授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	情報内容および情報技術を、安全かつ適切に活用するための基礎的知識・技能を身につけている	
科目概要	授業内容	メディアの発展とそれに伴うコミュニケーションへの影響についての理解を通して、コミュニケーションや情報伝達がどのように変化してきたのかを学ぶ。方法として、 <u>授業内でグループを組み、ディスカッション、問題発見・解決法の提示などといったアクティブ・ラーニングを実施する。</u>
	到達目標	・音、声、ことば、文字・記号、印刷技術、写真技術、通信技術などが、コミュニケーションを円滑にするために発展し、結果として社会制度の変革につながってきたことが理解できる。 ・更に、SNSなどの新しいコミュニケーション・メディアが、これまで以上に社会制度や人間関係を変革させ、私たちの生活や思考を変えていくことについて、事例を通して考えることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) メディアとは何か：音、声、ことば、文字、印刷技術(本／雑誌／新聞) (3) 有線通信技術と文字・音声メディア(電信／電話) (4) 無線通信技術と音声・映像メディア(ラジオ／テレビ／映画) (5) 無線通信技術と遠隔コミュニケーション(無線機／携帯電話) (6) インターネット関連技術とデータベース・情報検索 (7) インターネット関連技術と双方向メディア (8) コミュニケーションの不確実性 (他者と自己) (9) コミュニケーションの成立を支える要素 (状況について) (10) コミュニケーションの変化 (11) グループワーク (1) (12) グループワーク (2) (13) グループワーク (3) (14) グループワーク (4) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・グループで課題が出された時は、授業時間以外でも打ち合わせして、グループでの課題学習に取り組むこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業で出てきた用語や、他グループの報告内容の分からないところを、各自で復習して理解を完全にしよう努めること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は特に指定しない。適宜ハンドアウトを用いる 【参】 必要なときに指示する。	
成績評価方法と基準	<基準> 「種々のメディアの特性や、それが果たした役割を理解できているか。これからの新しいメディアを利用する上で注意を払う点やコミュニケーションに対する変化についての理解度合い」を合否判断の基準とする。 <方法> 受講態度20%、グループ学習成果40%、個人別課題の提出20%、レポート20%	
備考		

科目名	情報技術論	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	教養科目4群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	司書資格科目必修（法定科目名「図書館情報技術論」）	
授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）	教育課程の獲得目標	
	情報内容および情報技術を、安全かつ適切に活用するための基礎的知識・技能を身につけている	
科目概要	授業内容	職業人として必要とされる情報通信技術の基礎知識を学ぶ。また、図書館における情報技術活用の現状や、ウェブページの構成・評価、個人情報流出やウェブサイトの改ざんを防ぐための最低限の必要な知識といったネットワークに関わるサービスに携わる際の前提となる最低限の用語や概念について扱う。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報通信技術に関する基礎的な用語や概念を説明できる。 ・ コンピュータやネットワークを安全に利用するための方法を説明できる。 ・ 図書館における情報技術の活用の現状や最新技術について説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション, ITパスポート試験とは (2) コンピュータの歴史, 5大装置, 演算装置と主記憶装置 (3) 補助記憶装置と入出力装置 (4) 2進数と計算方法 (5) ソフトウェア, 文字コード, デジタルとアナログ (6) ファイルとディレクトリ (7) 表計算ソフト (8) データベースの仕組み, データの正規化 (9) デジタルアーカイブ, 電子書籍 (10) インターネットの歴史, コンピュータネットワーク (11) 通信サービス, WWWの仕組み, 検索エンジンの仕組み, 電子メール (12) アクセシビリティとユーザビリティ (13) クラウドコンピューティング (14) 情報通信技術とセキュリティ, 暗号と電子署名 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ 小テストや「使用教材・参考文献」を用いて復習する。
使用教材・参考文献	<p>【教】 きたみりゅうじ『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート 平成26年度 CBT対応』技術評論社, 2013年, ISBN9784774161808 [¥1,880+税]</p> <p>【参】 大串夏身『これからの図書館・増補版: 21世紀・知恵創造の基盤組織』青弓社, 2011年, ISBN9784787200471</p>	
成績評価方法と基準	<基準>	すべての小テストおよび小課題への合格と、最終試験・レポートの合格（60%以上の得点）を単位取得の条件とする。
	<方法>	小テストおよび小課題（40%）、最終試験・レポート（60%）の累積で評価する。欠席は減点する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が90名を超える場合には受講人数を制限し、抽選を行う。 ・ 小テストと最終試験において、指定文献を読書していないと解答できない問題を課す。 	

科目名	文書と数値の処理	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	教養科目4群 / 選択 / 前期or後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	情報内容および情報技術を、安全かつ適切に活用するための基礎的知識・技能を身につけている	
科目概要	授業内容	ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションの各分野のソフトウェアの利用方法を中心に講義を行う。もちろん、操作を覚えるだけでは「使える」ことにはならないので、活用のために“情報を上手に表現する技術”について演習を重ねる。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロを使った文書作成ができるようになる。 ・表計算ソフトを使った情報の蓄積、加工、分析ができるようになる。 ・プレゼンソフトを利用して発表ができるようになる。 ・複数のソフトを組み合わせた情報処理ができるようになる
授業計画	(1) 講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい (2) ワープロ1(基本操作) (3) ワープロ2(基本操作) (4) ワープロ3(応用操作) (5) ワープロ4(応用操作) (6) 表計算ソフト1(基本操作) (7) 表計算ソフト2(基本操作) (8) 表計算ソフト3(応用操作) (9) 表計算ソフト4(応用操作) (10) プレゼンテーション・ソフト1(基本操作) (11) プレゼンテーション・ソフト2(応用操作) (12) データベース1(基本操作) (13) データベース2(応用操作) (14) 各種ソフトを組み合わせた情報処理1 (15) 各種ソフトを組み合わせた情報処理2、総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
使用教材・参考文献	【教】 講義時に提示する。 【参】 参考文献は適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 「手順を覚えるのではなく、なぜその処理を用いるのかといったを理解した上でソフトウェアを操作し、活用できているか」を合否判断の基準とする。 <方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。	
備考	インターネット演習の単位を修得済みであることが履修登録の条件である。(前期クラスは、1年生は受講できない)教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味する。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	情報整理学	
担当者	鈴木 雄清 / SUZUKI, Yusei	
科目情報	教養科目4群 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	情報内容および情報技術を、安全かつ適切に活用するための基礎的知識・技能を身につけている	
科目概要	授業内容	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析など様々な場面での応用が可能である。
	到達目標	マインドマッピングや、グループワークによるブレインストーミング、親和図法等によって、情報を整理し視覚化するとともに新たな発想ができるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション、マインドマップの練習 (2) マインドマッピングとは、XMindの使い方 [課題1] (3) マインドマップの作成 [課題2] (4) ブレインストーミングとは [課題3] (5) グループによるブレインストーミング [課題4] (6) 親和図法とは、IdeaFragment2の使い方、紙切れ作り (7) 紙切れ集め、表札づくり、空間配置 (8) 空間配置、関係線の描画、A型図解化の完成 [課題5] (9) B型文章化 [課題6] (10) グループによるブレインストーミング [課題7] (11) 紙切れ作り、紙切れ集め (12) 紙切れ集め、表札づくり、空間配置 (13) 空間配置、関係線の描画、A型図解化の完成 [課題8] (14) B型文章化 [課題9] (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配付資料を必要に応じて読む。 ・意味のわからない用語について調べる。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。 ・小テストや配付資料を用いて復習する。
使用教材・参考文献	【教】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布するプリント小冊子を使用する。 ・コンピュータ (XMind, IdeaFragment2) を使用する。 【参】 <ul style="list-style-type: none"> ・トニー・ブザン・バリー・ブザン (著), 神田昌典 (翻訳) 『ザ・マインドマップー脳の力を強化する思考技術』ダイヤモンド社, 2005年, ISBN9784478760994 ・川喜田二郎『続・発想法』中公新書, 1970年, ISBN9784121002105 	
成績評価方法と基準	<基準> すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。 <方法> マインドマップの課題(20%), 親和図法A型図解化の課題[1](20%), 親和図法B型文章化の課題[1](5%), 親和図法A型図解化の課題[1](30%), 親和図法B型文章化の課題[1](10%), 読書課題(15%)の累計で評価する。欠席は減点する。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が90名を超える場合には受講人数を制限し、抽選を行う。 ・読書レポートの内容を成績評価の対象とする。 	

科目名	インターネット応用演習	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	教養科目4群 / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	情報内容および情報技術を、安全かつ適切に活用するための基礎的知識・技能を身につけている	
科目概要	授業内容	インターネットの特徴は、従来のメディアに比べて非常に低いコストで、個人が情報を発信できることである。本講義では、インターネットを使った情報収集だけでなく、情報の発信、それによる新しい形のコミュニケーションについて解説する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットについて簡単に説明できるようになる。 ・テキスト、静止画、動画、音声の加工ができるようになる。 ・ホームページが作成できるようになる。 ・Wiki、Blog、SNSを活用し、情報発信ができるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義についての紹介、コンピュータの基本操作のおさらい (2) インターネットとWWW。ホームページ作成1(HTML基礎) (3) ホームページ作成2(HTML応用) (4) Twitterによるコミュニケーション1 (5) Twitterによるコミュニケーション2 (6) Wikiの作成1(利用/項目作成) (7) Wikiの作成2(項目作成/公開) (8) Blogの作成1(基本) (9) Blogの作成2(活用) (10) Webサービスの活用(SNS作成/活用) (11) Webサービスの活用(スケジュール管理の活用) (12) ホームページ作成・応用1(CSSとXHTML) (13) ホームページ作成・応用2(各種データの加工) (14) 簡単なプログラミング (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題を必ずやること。
使用教材・参考文献	<p>【教】 教科書は使用しない。適宜ハンドアウトを利用する。</p> <p>【参】 参考文献は適宜紹介する。</p>	
成績評価方法と基準	<p><基準> 「与えられた課題をただやるのではなく、その課題がより効果的にみえる解決の手段・方法を選択して利用できているか、それに付随する項目は無いか考え、その追加等ができていないか」を合否判断の基準とする。</p> <p><方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。</p>	
備考	インターネット演習の単位を修得済みであることが履修登録の条件である。教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

科目名	映像音声編集入門	
担当者	大野 隆士 / OHNO, Takashi	
科目情報	教養科目4群 / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	情報内容および情報技術を、安全かつ適切に活用するための基礎的知識・技能を身につけている	
科目概要	授業内容	この講義では、音(声、音楽、効果音等)、画像(絵、写真、動画)の加工・編集等を通じ、映像表現を用いた情報発信を学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルデータとアナログデータの特性が理解できる。 ・音声および動画の基礎的な編集ができるようになる。 ・基本的な表現方法が理解できるようになる。 ・効果的な表現方法を用いて簡単な映像を作成できるようになる。
授業計画	(1) コンピュータの基本操作 (2) 編集における基礎的知識(1) - 用語、歴史、音声、映像の記録媒体と記録形式 (3) 編集における基礎的知識(2) - 音声、映像の記録機器と編集機器 (4) 編集における基礎的知識(3) - 音声、映像の編集方式 (5) 編集における基礎的知識(4) - 表現、ストーリー、プロット、主題、形式、キャラクター (6) 写真の加工、編集の基礎 (7) 音声の加工、編集の基礎 (8) 動画の加工、編集の基礎 (9) 映像の加工、編集の応用(1) (10) 映像の加工、編集の応用(2) (11) 音声、映像編集(1) (12) 音声、映像編集(2) (13) 音声、映像編集(3) (14) 音声、映像編集(4) (15) 映像の品評、総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題を必ずすること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。適宜ハンドアウトを配布する。 【参】 適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 「与えられた課題をただやるのではなく、題意をふまえ、その課題がより効果的にみえる解決の手段・方法を選択して利用できているか、それに付随する項目は無いか考え、その追加等ができていないか」を合否判断の基準とする。 <方法> 受講態度(30%)、課題(30%)、試験・レポート(40%)による。	
備考	インターネット演習を修了していない者は受講登録できない。受講登録数の制限あり。	